

早稲田大学 人間科学学術院 人間科学会 諸費用補助成果報告書 (Web 公開用)

申請者 (ふりがな)	五井野 龍了 (ごいの たつあき)
所属・資格 (※学生は課程・学年を記載。卒業生・修了生は卒業・修了年月も記載)	大学院 人間科学研究科 修士課程 2年
発表年月 または事業開催年月	2023年7月
発表学会・大会 または事業名・開催場所	第64回日本心身医学会総会ならびに学術講演会 神奈川県 パシフィコ横浜会議センター
発表者 (※学会発表の場合のみ記載、共同発表者の氏名も記載すること)	発表者:五井野龍了 共同発表者:宝本 小枝子, 金 智慧, 平田 修三, 岩垣 稲大, 増田 和高, 日高 友郎, 多賀 努, 森松 明希子, 猪股 正, 辻内 優子, 桂川 泰典, 小島 隆矢, 熊野 宏昭, 扇原 淳, 辻内 琢也
発表題目 (※学会発表の場合のみ記載)	福島原発事故避難者が抱える心理社会的苦痛および要望に関する質的分析:2022年首都圏避難者実態調査から
発表の概要と成果 (抄録を公開している URL がある場合、「概要・成果」を記載した上で、URL を末尾に記してください。また、抄録 PDF は別途ご提出ください。なお、抄録 PDF は Web 上には公開されません。)	
<p>発表の概要</p> <p>福島原発事故避難者が抱える心理社会的苦痛および要望について、アンケート調査を用いて質的分析を行なった。</p> <p>以下、学会に提出した抄録より引用</p> <p>【目的】福島原発事故より 11 年が経過した 2022 年時点においても、首都圏避難者は約 1 万 2000 人におよび、事故の被害は終息したとは言えない。首都圏避難者アンケート調査の自由記述回答をもとに、避難者が抱える心理社会的苦痛と要望を明らかにする。【方法】早稲田大学災害復興医療人類学研究所(WIMA)と震災支援ネットワーク埼玉(SSN)は、2012 年以来継続的に原発事故避難者に対する共同調査を実施してきた。2022 年は 1 月から 4 月にかけて、首都圏(1 都 6 県)に避難中の 5,350 世帯を対象にアンケート調査を実施した。本研究では、得られた回答 516 件(回収率 9.6%)の内、自由記述欄回答があった 233 件を対象に、それぞれの自由記述の内容ごとにグループ分けを行い、特徴的な語りを抽出した。(倫理承認 No.2021-352)【結果】自由記述の内容は、1)賠償、2)帰還・移住、3)放射能汚染、4)健康・病い・老い、5)家族との関係、6)近隣・地域との関係、7)喪失、8)国・県・市町村自治体に対する要望、に分類された。避難者は帰還や移住に伴う費用、避難元および避難先における人間関係、避難生活に伴う健康状態の悪化、被曝リスク、子どもの健康に関連する不安という困難に直面していることが明らかになった。【結論】原発事故避難者の現在の心理社会的苦痛が明らかにされた。被災者の変化するニーズの詳細な把握とケアが求められる。</p> <p>成果</p> <p>心理師や医療者が多く集まる学会において、震災から 10 年以上が経過した今日における福島原発事故避難者が今日抱えている苦痛・困難および要望について報告し、課題を提示した、また、デジすかつションにおいては避難者の帰還・移住に関連した記述について質問・意見を頂き議論を深めることができた。</p>	

※無断転載禁止